

# 日・独語における合成語構造の対照研究

## (1) 複 合 名 詞

山 田 芳 樹

### A comparative study of Japanese and German composita

#### (1) Compound noun

Yoshiki YAMADA

As society develops new ideas, situations and things continually occur one after another. In order to cope up with them linguistically, we must constantly name them with new words.

Word-formation is therefore one of the universal language activities, as Wilhelm von Humboldt once said, "Language is not itself a product (*εργον*), but an activity (*ενεργεια*)."

On the occasion of a new naming, the compound and derivation are generally carried out through all ages in the world.

We regard the combination (morpheme construction) consisting of two or more basic morphemes (free-form words) as the compound.

In this paper I attempt to compare the compound nouns of Japanese, an agglutinative language, and those of German, an inflectional language, from a structural point of view based on the relationship between the two meanings (which are divided into by the binary method) composing each compound noun. In this way the outline of Japanese and German composita-system will become clear.

#### 0 は じ め に

歴史的にも文化的にも大きく異なくドイツ語・日本語の両言語において、その語彙を分類・比較するにあたり、始めにそれぞれの名詞体系、表記体系、音韻の違いについて、簡単にその特徴的なことを整理しておきたい。

#### 0-1 名詞体系について

ドイツ語で名詞とは文法上区別される十品詞のうちの一品詞で、性・数・格を持ち、常に大文字書きにされ、現わす内容は、物質的（本質・実体）及び思想的に存在するものや概念である。

一方、日本語では、単語と性質により分類した十品詞のうちの一品詞であり、体言、用言の区分における体言（単独で文節を構成し得る語）のうち構文的職能（自立語で主語となり得る等）の観点から見た実体・概念を現わす語を名詞だとし、形態的観点から見れば、活用がなく、もちろんドイツ語のような性・数・格はない。しかし語発生的なことも考慮に入れば、副詞や形容詞的な用法が主である時詞や数詞等も名詞として扱われている。

ドイツ語で合成語の品詞を決定するのが、最後に来る語内部の構成要素であるのに対し日本語では、語全体で決められたり、文中における合成語外部の送り仮名によって決まる場合が少なくない。

## 0-2

### 表記体系について

ドイツ語では26文字のアルファベット、3つのウムラウト文字及び $\beta$ の合計30文字の組み合わせにより、表音文字としての語彙が形成されるのに対し、日本語では50音図と呼ばれる47基礎文字に、濁り・半濁り文字50を加えた97文字の平仮名及び片仮名、さらには常用で1945字、実際の日常生活において新聞・雑誌等で目にふれるのは3200字前後の表意文字である漢字を併用している。

又、日本語の語彙の中には本来の語彙である和語の他に中国から渡来した漢語、中世以降欧米から入って来た洋語があり、同一物が三様に呼ばれたりすることがある。（宿屋—旅館—ホテル、贈り物—贈呈品—プレゼント等）又、中には（厠—便所—トイレ）のように和製の漢語的表現をするものもある。

複合語においてこの和語・漢語・洋語は様々な形で合成されている。

- |           |           |          |       |
|-----------|-----------|----------|-------|
| ① 和語+和語   | 春風        | ② 和語+漢語  | 夕食    |
| ③ 漢語+漢語   | 創造        | ④ 外来語+和語 | オレンジ色 |
| ⑤ 外来語+漢語  | テレビ番組     | ⑥ 和語+外来語 | 押しボタン |
| ⑦ 漢語+外来語  | 音楽テープ     | ⑧ 漢語+和語  | 獅子舞   |
| ⑨ 外来語+外来語 | ペーパードライバー |          |       |

又、外来語はほとんどが名詞として日本語に借用される一方で、記号のように扱われ、語源に関係なく用いられているものもある。ドイツ語の Karte、英語の card、ポルトガル語の carta は印欧語の歴史の上では同義語であるのに日本語では三種の事物に対応させたり、さらには歌留多のごとく音に漢字を当てはめたものも多い。

ドイツ人の外来語借用は、外来語を原義においてとらえ、意味をそなえた言葉として取り入れ、ドイツ語に完全に同化されて、母国語の語彙と自由に結合される。

英語からの借用 Kontainerverkehr, Laserstrahl

仏語からの借用 Frauenemanzipazion, Arbeitsplatzengagement

フィンランド語からの借用 Autosauna

等々

0-3

音韻の違いについて

事物の表象・認識との対応において意味を担うものは語であるが、その意味を支えるものに内形たる法則と外形たる音声がある。そこで音声面についても少し触れておきたい。

ドイツ語では、単一語であれ、複合語であれ、たとえ変母音、転母音、接辞追加・挿入が行われても発音は一様であり、文字と音との関係に変異体は認められない。

Haus + Makler > Häusermakler, Berg—Gebirge  
(Häuser)

Universität + Gesetz > Universitätsgesetz

一方、日本語の音韻組織は単純で V 又は CV の開音節性の音節が主であり、撥音や促音等の特殊な音節が若干存在するだけである。しかし和語、漢語の読み違いがあつて、それが日本語の読み方を複雑なものにしている。漢字には音読（主に呉音・漢音・唐(宋)音）、訓読、義訓読等があり、音節が結合する際、次のような読み方が生じる。

- 1 重箱読み 役目、本箱、台所、屋敷
- 2 湯桶読み 夕食、荷物、手配、見本
- 3 変母音 雨音 < 雨+音, 風向き < 風+向き  
Amaoto Ame+Oto Kazamuki Kaze+Muki
- 4 変子音(連濁) 竹林 < 竹+林, 谷川 < 谷+川  
Takebayashi Take+Hayashi Tanigawa Tani+Kawa
- 5 子音追加・連声 春雨 < 春+雨, 因縁 < 因+縁  
Harusame Haru+Ame Innen In+En
- 6 促音 列車 < 列+車, 日記 < 日+記  
Rettsha Retsu+Sha Nikki Nichi+Ki
- 7 その他混合音 風車 < 風+車, 雨雲 < 雨+雲  
Kazaguruma Kaze+Kuruma Amagumo Ame+Kumo

変母音の種類としては e → a (雨音), i → o (木陰), o → u (口調), o → a (白魚) の 4 種, 変子音の種類としては, k → g (笑顔), f → p (新風), h → b (ゴミ箱), s → z (甘酒), t → d (木立ち), chi → ji (鼻血), ts → z (三日月) 等がある。又連声については m・n・t 音の次にくるア・ヤ・ワ行音が変化する。促音についてはツ音が p・t・k・s の摩擦音で始まる音節と結合される時に生じる。

その他にもまだまだ音声面で述べなければならない事があるが、語の構造とその意味関係を解析する造語論の本筋から離れない為にこれだけに止めておく。

以上のように日本語の音は音節が重なる際、多くの変異体を伴うが、意味上は一つの語基であるので、当然同一のものと見なされる。同様にドイツ語の複数形語尾 (-e, -en, -er), ウムラウト, 複合の際の接辞 (-s-, -en- 等) についても共時的な考察をする際には、同一の語基と

して取り扱うことにする。

## 1. 複合名詞の分類について

複合語とは2個又は2個以上の単語が合成された形態素構造体であり、その直接構成要素には独立形態素又は重合成語に見られる形態素構造体が現われる。本稿で取り扱う複合名詞を観察・分類するに際しては、あくまでも共時的立場をとり、又形態素構造体のほとんどが、意味関係の組織上、2つの直接構成要素に分けられるので、二分法による構造分析を行う。

複合名詞をその連辞内部の関係（意味関係）に従って分類すると、次の3つに分けることが出来る。

### (1) 規定関係の複合名詞

この種に属する複合名詞はドイツ語の全てと日本語の大半において、第一構成要素となるべき規定語が第二構成要素の基礎語を意味上限定・修飾する関係にあるものを指す。この場合、基礎語となるのは、ドイツ語においては原則として名詞のみであるが、日本語においては、品詞を決定するのが文中で関連付けされる送り仮名である場合が多く、必ずしも名詞だけに限定する訳には行かない。だから構造体全体が名詞であれば、名詞として取扱うことにする。

一方、規定語となるものには、様々な品詞の形態素が現われるが、派生語を作る結合形態素については除くものとする。

### (2) 対等関係の複合名詞

この種の複合名詞は、第1・第2の構成要素が対等の関係にあるという点で、規定関係の複合語から区別され、現わす意味内容も両要素の合計か、又は両要素を兼ねる1つのものを指している。

### (3) 所有関係の複合名詞

この種の複合名詞は、文字と音との間に変異体のないドイツ語においてのみ分類され、構成要素全体の内的関係を所有する、及び特徴として持つ人、動・植物、物を現わすか、又は全く比喩的なものを現わす。

以上、意味関係により大きく3つに分類したが、これより個々の構造パターンに従い、日・独両複合名詞を観察していくことにする。

## 2. 規定関係の複合名詞

複合名詞の二分法による直接構成要素分析により取り出された規定語(A)と基礎語(B)の関係を、構成要素による分類をする際、次のように考察することにする。

1) 独: <sup>複合名詞</sup>Haustür < <sup>構成要素</sup>/Haus/+/Tür/ < <sup>意味解釈</sup>Tür des Hauses : <sup>構造パターン</sup>SN (SN・SN)

2) 日: 雨降り < /雨/+/降り/ < 雨が降ること : SN (SN・SV)

1)において、複合名詞 *Haustür* の内的関係は A が B を所有の関係で規定している。又2)の「雨降り」については AB は主述の関係にあり、やはり規定関係の複合名詞である。

このようなとらえ方で分類出来るパターンごとに、A と B との意味関係を調べていくことにする。

## 2-1 SN [SN<sub>1</sub>・SN<sub>2</sub>]

- |   |   |
|---|---|
| (a) <i>Mondeslicht</i> < <i>Licht des Mondes</i><br><i>Vaterhaus</i> < <i>Haus des Vaters</i>   | (α) 月光 < 月の光<br>海風 < 海の風                          |
| (b) <i>Pferdeschwanz</i> < <i>Schwanz des Pferdes</i><br><i>Telephonhörer</i> < <i>Hörer des Telefons</i>                             | (β) 湖面 < 湖の表面<br>テレビ画面 < テレビの画面                   |
| (c) <i>Lederhose</i> < <i>Hose aus Leder : lederne Hose</i><br><i>Pelzmütze</i> < <i>Mütze aus Pelz</i>                               | (γ) 米油 < 米ぬかからとった油<br>皮ジャン < 皮製のジャンパー             |
| (d) <i>Regenschirm</i> < <i>Schirm gegen Regen</i><br><i>Weinflasche</i> < <i>Flasche, damit man Wein trinkt.</i>                     | (δ) 雨傘 < 雨を防ぐための傘<br>ワイングラス < ワインを飲む為のグラス         |
| (e) <i>Freudenträne</i> < <i>Träne aus Freude</i><br><i>Liebeskummer</i> < <i>Kummer wegen unglücklicher Liebe</i>                    | (ε) 水害 < 水による災害<br>カゼ熱 < カゼによる発熱                  |
| (f) <i>Italienreise</i> < <i>Reise nach Italien</i><br><i>Alpenflug</i> < <i>Flug über die Alpen</i>                                  | (ς) イタリア旅行 < イタリアへの旅行<br>海外遠征 < 海外へ遠征に出かけること      |
| (g) <i>Stadtbahn</i> < <i>Bahn in der Stadt</i><br><i>Haustier</i> < <i>Tier, das im Haus gezucht wird</i>                            | (η) 市電 < 都市の中を走る電車<br>村役場 < 村の役場                  |
| (h) <i>Morgenssonne</i> < <i>Sonne am Morgen</i><br><i>Frühlingsblume</i> < <i>Blume, die im Frühling blüht</i>                       | (θ) 彼岸花 < 彼岸の頃に咲く花<br>朝日 < 朝の日                    |
| (i) <i>Staubregen</i> < <i>Regen wie Staub</i><br><i>Affenliebe</i> < <i>übertriebene, blinde Liebe für Kinder wie ein Affe macht</i> | (ι) 霧雨 < 霧のような雨<br>モンキーダンス < 猿が踊るような踊り            |
| (j) <i>Hühnerei</i> < <i>Ei des Huhnes</i><br><i>Muttersprache</i> < <i>Sprache, die man von Kind auf gelernt hat</i>                 | (κ) 飛行機雲 < 飛行機の航跡にできる雲<br>霜柱 < 霜による水分が地表で柱状に凍ったもの |
| (k) <i>Affenhitze</i> < <i>furchtbar hohe Temperatur</i><br><i>Maultier</i> < <i>Kreuzung zwischen Eselhengst und pferdestute</i>     | (λ) 身体 < からだ<br>溪谷 < たに<br>羽毛 < 鳥の羽               |

このパターンに属する複合名詞は(A)が(B)に対し、所有、部分、素材、目的、用途、理由、方向、場所、時、比較、創造、強化等を現わす。両要素の意味を関係付ける際、ドイツ語においては大抵が規定語を二格、形容詞、前置詞句、副文に置き換えることによって解釈される。一方、日本語においては、(A)の(B)、(A)による(B)、(A)を～する為の(B)、(A)への(B)、(A)のような(B)等、AB の関係を現わす接合要素によって解釈される。しかし(λ)「身体」のように似通った漢字を重ねて1つの意味を明確にしたり又、強調するものもある。

## 2-2 SN [SV・SN]

- |  |                                |
|--|--------------------------------|
| (a) <i>Bratpfanne</i> < <i>Pfanne zum Braten</i><br><i>Trinkwasser</i> < <i>Wasser zum Trinken</i> | (α) 読書 < 書を読むこと<br>観劇 < 劇を見ること |
|--|--------------------------------|

- |  |                              |
|--|------------------------------|
| (b) Schlagsahne<geschlagene Sahne<br>Bratkartoffeln<gebratene Kartoffeln | (β) 入門<門に入ること<br>登山<山に登ること   |
| (c) Säugetier<Tier, das säugt  | (γ) 降雨<雨が降ること<br>開花<花が開くこと   |
| (d) Pflegekind<Kind, die in Pflege gegeben wird.                         | (δ) 寝室<寝る部屋<br>計測機器<計測する為の機器 |
| (e) Lerneifer<Eifer beim Lernen<br>Bohrkapazität<Kapazität im Bohren     | (ε) 登録義務<登録すべき義務             |
| (f) Meldepflicht<Pflicht des Meldens<br>Denkkraft+Kraft des Denkens      |                              |

ドイツ語において、(A)は動作・状態を現わし、(B)のほとんどはその対象・目的を現わすが、その関係は、能動的な場合と受動的な場合がある。又、(B)に動作の主体が現われることもある。一方、日本語では、(A)が動作を現わし、(B)にその主体、目的語、補語が現われ、(B)を(A)にすること、(B)に(A)すること、(B)が(A)すること、(A)する為の(B)、(A)の(B)等で解釈出来る。

## 2-3 SN [SA・SN]

- |   |   |
|---|---|
| (a) Altstadt<alte Stadt<br>Edelmann<edler Mann  | (α) 古都<古い都<br>白魚<白い魚  |
| (b) Großstadt<Stadt mit mehr als 100,000 Einwohnern<br>Hochhaus<Haus mit mehr als sechs Stochwerken | (β) 大都市<人口多く商工業・経済・文化・<br>政治などの中心となる都市<br>高層雲<2~5km 上空に広がる濃灰色の雲 |
|   | (γ) 空腹<腹が空になること<br>紅葉<葉が紅や黄に色づくこと                               |

このパターンに属する複合名詞は、日独両語とも形容詞が名詞に合成されたものである為、Aを形容詞として用いれば、大体の意味は解釈される。ただ(b)や(β)のように社会的な制約を認識しておかないと厳密に理解出来ないものもある。又、日本語においては(γ)のように、主述の関係になる漢語由来の複合語もある。

## 2-4 SN [Z・SN]

- |   |  |
|---|--|
| (a) Viergespann<Gespann mit vier Pferden<br>Zweikampf<Kampf zwischen zwei Personen            | (SN [SN・SN])<br>(α) 三家族<三つの家族<br>五輪<五つの輪(オリンピックのマーク) |
| (b) Halbinsel<Insel, der auf drei Seiten von Wasser umgeben ist<br>Halbkreis<ein halber Kreis | (β) 半島<陸続まで長く海につき出している土地<br>半円<半分の円                  |
| (c) Erstaufführung<die erste Anfführung<br>Zweitschrift<die zweite Schrift                    | (γ) 初公演<初めての公演<br>第三世界<アジア・アフリカ・中南米の発展途上諸国           |

数詞には基数、序数、分数等の区別があるが、日本語では名詞の範疇に入れられている。だからドイツ語についてのみ言及しておくが、このパターンに属する複合名詞の規定語にはほとんど、1~10迄の数詞が用いられる。又(A)は(B)に対し大抵は直接の関連性を持たないが、(A)を形容詞的に用いれば理解出来るものもある。一方、(C)のように(B)が動詞からの派生名詞からなる複合語も

多く、厳密に言えば、SN [Z・SV] のパターンに分類出来るが、ここに付け加えておくことにする。この場合には(A)を形容詞的に扱うだけで容易に理解される。

## 2-5 SN [Pa・SN]

(SN [SA・SN])

- |   |                        |
|---|------------------------|
| (a) Außentemperatur < Temperatur draußen    | (α) 外気 < 外の空気          |
| (b) Innentür < innere Tür                   | 前夜 < 前の夜<br>内装 < 内部の装い |
| (c) Nachsommer < der sommerliche Herbsttage |                        |

(A)に現われる不変化詞の大半は副詞であり、ドイツ語においては(B)に対し場所、時、状態、事情等を決定している。一方、日本語においては、副詞と形容詞の区別が語だけでは出来ないのです。この種のパターンは2-3のごとく(A)が形容詞として解釈される。

## 2-6 SN [Pron・SN]

- |   |                              |
|---|------------------------------|
| (a) Ichform<br>Duform (Personelpronomen+Substantiv)           | (α) 私事<br>彼氏 (人称代名詞+名詞)      |
| (b) Werfall<br>Wesfall (Fragepronomen+Substantiv)             | (β) 何事 何処<br>何時 (不定称+名詞)     |
| (c) Alltag<br>Nichtsutz (Indifinitpronomen+Substantiv)        | (γ) 誰誰<br>処処 (不定称+不定代名詞)     |
| (d) Diesseits<br>Selbstmord (Demonstrativpronomen+Substantiv) | (δ) こちら側<br>向こう隣り (指示代名詞+名詞) |

この種の複合名詞は、ドイツ語においてはごくまれであり用法も限られていて、専門用語や日常の慣用的なものばかりであるが、日本語では、代名詞、不定称との複合語は少なくない。日本語では特に代名詞の区別が行われませんが、それぞれの代名詞を重ねて複数扱いになったり(我々)、(γ)のように不定の指示語になる場合もある。

## 2-7 SN [SN・SV]

- |  |   |
|--|---|
| (a) Knochenbruch < Bruch des Knochens<br>Kindererziehung < Erziehung der Kinder                        | (α) 雷鳴 < 雷が鳴ること<br>日暮れ < 日が暮れること            |
| (b) Stadtbewohner < Bewohner in der Stadt<br>Fabrikarbeiter < Arbeiter in der Fabrik                   | (β) 歯みがき < 歯をみがくこと<br>知識欲 < 知識を欲すること        |
| (c) Diskussionsteilnehmer < Teilnehmer an die Diskussion<br>Stromversorgung < Versorgung mit dem Strom | (γ) 空輸 < 航空機によって輸送する事<br>鉛筆書き < 鉛筆で書くこと     |
| (d) Kronenentsagung < Entsagung auf die Krone<br>Warenbedarf < Bedarf an Waren                         | (δ) 海釣り < 海で釣りをすること<br>外国産 < 外国で産出されること     |
| (e) Schwefelgeruch < Geruch von Schwefel<br>Sprachinteresse < Interesse an Sprachen                    | (ε) 湯沸 < 湯を沸かすための器具<br>兎飛 < 兎のようにピョンピョン飛ぶこと |

ドイツ語においてこの種の複合名詞の解釈には2通り考えられる。(a)のように(B)が他動詞からの派生名詞で(A)がその目的語である場合は二格で、(b)~(e)のように(B)が自動詞からの派生名詞で

(A)が目的, 場所等を現わす場合には, (B)の動詞形が(A)との関係において支配するか, 又は(B)が支配する前置詞句でもって解釈出来る。一方, 日本語においては多くが(α)のように(A)(B)が主述の関係にあるが, (β)~(δ)のように(A)が目的語, 手段, 場所を現わす複合語もある。又(ε)のように(A)(B)の関係を担う道具・器具を現わすものや(A)に比喩語が現われることもある。

## 2-8 SN [Pa・SV]

- |  |               |
|--|---------------|
| (a) Schönredner<einer, der schön redet           | (α) 速記<速く記すこと |
| Schnelldrucker<Druckmaschine, die schnell druckt | 特売<特別に売り出すこと  |
| (b) Zusammenarbeit<zusammen zu arbeiten          | 仮定<仮に定めること    |
|  | 共生<共に生きること    |
| (c) Sonderauftrag<besonderer Auftrag             | 安産<安らかに産むこと   |
|  | 独立<独りで立つこと    |

この種の複合名詞には(A)として副詞が現われ, (B)との関係において状況を現わすので, ドイツ語, 日本語とも(A)は副詞的に解釈される。(C)のように(A)として特殊な形態素(sonder は besonderesの結合形態素)が現われた場合のみ, (A)は形容詞として解釈されるが, 用例はごく稀である。

## 2-9 SN [SV・SV]

- |  |                     |
|--|---------------------|
| (a) Spaziergang<spazierenzugehen                                   | (α) 禁止<禁じ止めること      |
|  | 証明<証かし明らかにすること      |
| (b) Kannbestimmung<eine Bestimmung, die berücksichtigt werden kann | 運送<運び送ること           |
|  | 遊泳<泳ぎわたること          |
|  | (β) 競争<走るのを競うこと     |
|  | 競売<売るのを競うこと         |
|  | (γ) 立ち読み<立ちながら読むこと  |
|  | 居寝り運転<居寝りしながら運転すること |

ドイツ語ではこの種の複合名詞は非常に稀で慣用語だけである。一方, 日本語では(α)のように類似の意味をもった漢語2字を重ねて, 1つの意味を明確かつ強調するもの, (β)のように(B)が(A)の目的を現わすもの, (γ)のように(A)が状態を現わす関係にあるものがある。

## 2-10 SN [SN・SA]

- |   |               |
|---|---------------|
| (a) Körperwärme<Wärme des Körpers                                 | (α) 足早<足が早いこと |
| (b) Geschäftstätigkeit<in einem Geschäft tätig zu sein            | 気長<気が長いこと     |
|   | 身軽<身が軽いこと     |
| (c) Magenleidender<einer, der an Magen leidet                     | 円高<円が高いこと     |
| Unfallgeschädigter<einer, der durch einen Unfall geschädigt wurde |               |

ドイツ語では(B)に形容詞又は分詞からの派生名詞が現われ, (A)は(B)に対し場所, 原因等を現わす。一方, 日本語では(A)(B)は主述の関係を現わしている。



## 2-11 SN [SA・SA]

(a) Rotgrünblindheit < erbliche Farbenblindheit für Rot und Grün

温暖<あたたかなこと  
(α) 暗黒<まっくらやみ  
同等<同じであり等しいこと  
(β) 多少<多いこと (少ないこと)  
緩急<緩やかなこと (急なこと)

このパターンに属するドイツ語はごく稀で慣用的表現しかなかったが、日本語においては、相当用いられている。(α)のように意味の似通った漢字を重ねて1つの意味を明確にしたり強調したりするもの、又(β)のように意味の対立する漢字を重ねて、そのいずれか一方の意味を強調するものもある。

## 2-12 その他、数少ない複合名詞のパターン

### SN [SV・SA]

Lerneifrigkeit < Eifrigkeit im Lernen

Denkfähigkeit < Fähigkeit, klar und logisch zu denken

### SN [Pa・Pa]

単独<ただひとり

急速<早くすみやかなこと  
早急<非常に急なようす

### SN [SN・Z]

Jahrhrhundert < ein Zeitraum von hundert Jahren

Jahrzehnt < ein Zeitraum von zehn Jahren

### SN [SN/SA・Z]

ベスト 4

ナンバーワン  
嘘八百

以上のようにみてきた規定関係の複合名詞を構成要素に従ってまとめてみると、ドイツ語では SN [SN/SA/SV/Z/Pron/Pa・SN], SN [SN/Pa/SV/・SV], SN [SN/SA/SV/・SA], SN [SN・Z] に、日本語では SN [SN/SV/SA/Pron・SN], SN [SN/Pa/SV・SV], SN [SN/SA・SA/Z], SN [Pa・Pa] ということになる。又、基礎語との関係において規定語は、所有、部分、所有者、主体、目的語、理由、手段、場所、由来、目的、素材、比較、強化、起源等を現わし、意味を関係付けるのは、基礎語の性格（表現能力）にあるといえる。

## 3. 対等関係の複合名詞

複合名詞の直接構成要素分析により取り出された第一(C)と第二構成要素(D)の結合を、構成要素による分類をする際、次のように考察することにする。

1) 独: <sup>複合名詞</sup>Strumpfhose < <sup>構成要素</sup>/Strumpf/ + <sup>意味解釈</sup>Hose/ < <sup>構造パターン</sup>Gestrickte Hose und Strümpfe in einem Stück : SN [SN<sub>1</sub> + SN<sub>2</sub>]

2) 日: 得失/得/+ /失/< 得ることと失うこと: SN [SV<sub>1</sub>+SV<sub>2</sub>]

1) において複合名詞 Strumpfhose の現わす意味は、(C)(D)両方が全体として1つのものであり、2) における「得失」は、(C)(D)両方がそれぞれの意味を現わしている。だから(C)(D)の関係は2で述べた規定関係の複合名詞とは質を異にしているのである。

3-1 SN [SN<sub>1</sub>+SN<sub>2</sub>]

- |   |                          |
|---|--------------------------|
| (a) Strumpfhose < gestrickte Hose und Strümpfe in einem Stück                       | (α) 蝦蟹(えびがに) < ザリガニ      |
| Hemd hose < waschestüchle der Hemd und Hose aus einem Stück                         | パンスト < タイツ風のストッキング       |
| (b) Ingenieurphilologe < einer, der nicht nur Ingenieur, sondern auch Philologe ist | (β) 作詞家 < 作詞家兼作曲家        |
| (c) Dichterkomponist < einer, der nicht nur Dichter, sondern auch Komponist ist     | (γ) 河海 < 河と海<br>手足 < 手と足 |
| (d) Strichpunkt < Semikolon   | (δ) 天地 < 天と地             |
| Gottmensch < Christus als Mensch und Gott zugleich                                  | 利害 < 利益と損害               |

ドイツ語の複合名詞ではこのパターンしか存在しない。現わす内容は、(a)全体で1つのもの、(b)(c)1人2役(ただし(c)は(C)(D)とも動詞からの派生であるのでSN [SV+SV]とも考えられる)(d)慣用的に用いられていて(C)(D)の要素の意味だけでは理解出来ないものがある。

一方、日本語では、(α)全体で1つのもの、(β)1人2役、(γ)同一範囲の事物を現わす漢字を重ねて、両方の意味を現わすもの、(δ)意味の反対・対立する漢字を重ねて両方の意味を現わすものがある。特に(γ)(δ)の例が広く用いられている。又、ドイツ語では(a)~(c)においてのみ(D)(C)の順で現われる場合がある。

3-2 SN [SA<sub>1</sub>+SA<sub>2</sub>]

- (α) 明暗 < 明るさと暗さ  
軽重 < 軽さと重さ  
遠近 < 遠いことと近いこと  
善悪 < 良いことと悪いこと

日本語にのみ存在するこのパターンの複合名詞は、意味の相対する漢字を重ねて両方の意味を表わすものだけで、かなり多く用いられている。

3-3 SN [SV<sub>1</sub>+SV<sub>2</sub>]

- |  |   |
|--|---|
| (a) Dichterkomponist < einer, der dichtet und komponiert | (α) 採用 < 多数の中から選んで用いること<br>歓迎 < よろこんで迎えること  |
|  | (β) 愛憎 < 愛することと憎むこと<br>榮枯 < 栄えることと衰えること     |
|  | (γ) 読み書き < 読んだり書いたりすること<br>見聞 < 見たり聞いたりすること |

この種に挙げたあるドイツ語の(a)は 3-1 で述べたように各要素が動詞からの派生だとはっきりしている場合にはこのパターンに入れられるし、名詞だと考える場合には SN [SN<sub>1</sub>+SN<sub>2</sub>] のパターンに入れられる。

一方、日本語では(α)個々の意味を合わせて 1 つの意味、(β)反対・対立する漢字を重ねて両方の意味、(γ)同一範囲の事物を現わす 2 語を重ねて両方の意味を現わすものがあり、この複合名詞もかなり多く用いられている。

このように対等関係の複合名詞は、ドイツ語では、SN [SN<sub>1</sub>+SN<sub>2</sub>] (SN [SV<sub>1</sub>+SV<sub>2</sub>]) の構造しか存在しないのに対し、日本語では SN [SN<sub>1</sub>+SN<sub>2</sub>]、SN [SA<sub>1</sub>+SA<sub>2</sub>]、SN [SV<sub>1</sub>+SV<sub>2</sub>] の構造がはっきりと存在していて、その現わす内容は、両者全体で 1 つのもの、両者の二面性、及び慣用的なもののうちいずれかである。

#### 4. 所有関係の複合名詞

この種の複合名詞は、形態上、規定関係の複合名詞と同様に第一構成要素である規定語が、第二構成要素である基礎語を修飾する働きを持っているが、異なる点は、全体の現わる意味内容が、両要素の意味関係の特徴としてもつ人、動・植物、物を指すところにある。

例えば、Er ist Hasenfuß, において Hasenfuß</Hase/n/Fuß/は「兎の足」であるが、その意味で解せば、この文は非文となってしまう。実際には、「兎の足のごとくおどおどする人」→「臆病者」を現わしている。

同様に Das ist Tausendfüßler, において Tausendfüßler は「千本の足を持つもの」という意味から、比喩的に沢山の足を持つ動物である「ムカデ」を現わしている。

ここで構造パターンを記述するに際しては規定関係の複合名詞と同様に扱い、全体を現わす記号のみ SN<sup>+</sup>でもって現わすことにする。

##### 4-1 SN<sup>+</sup> [SN・SN]

Milchgesicht<einer,der das Gesicht wie des Milchsauenden Knaben trägt ; unreifer Jungling  
Hasenfuß<einer,der Füße wie eines Hasen hat ; Feigling

##### 4-2 SN<sup>+</sup> [SA・SN]

Langbein<einer, der lange Beine besitzt  
Dickkopf<einer mit dickem Kopf

##### 4-3 SN<sup>+</sup> [SV・SN]

Trotzkopf<trotziges, eigensinniges Kind

#### 4-4 SN<sup>+</sup> [Z・SN]

Zweirad<Fahrrad mit zwei Rädern

Tausendfüßler<Miriapoda

この様にドイツ語では、SN<sup>+</sup> [SN/SA/SV/Z・SN] の形態で構造全体の内容を(1)所有する、(2)特徴とする、(3)全く比喩的に特徴付けされる人・動物・植物・物を現わす複合名詞が若干存在している。

一方、日本語においては、文字のみこの部類に加えられる語彙があり、百足 [Mukade]、河豚 [Fugu]、蝸牛 [Katatsumuri] 等が挙げられるが、しかし実際には、それぞれに別の読みを当てたり、片仮名表記によって、連辞関係の不明な単一語となっているので、所有関係の複合名詞とは言い難い。

#### 結 び

上述のように混沌とした日・独両語の複合名詞を、意味関係により大きく3つに分類し、個々のパターンを考察してきたが、外国から我国に輸入した学問や考え方の影響もあり、語の構造に類似した点も多く認められる。特に医・薬学、哲学、工学等の用語を調べるとそれが顕著に現われている。

一方、構造体が全体として独立した意味の発展をとげ、その関係付けが不明瞭なものや慣用化されていて、通時的考察に委ねなければならないものもあるし、語自体が用いられる本来の姿、すなわち句や文中での働きをも考慮に入れなければならないのも自明の事である。

又、日本語とドイツ語では、言語習得の環境や訓練も随分異なり、前者は絵画で、後者は書であると言える程差がある。漢字使用者にとって、漢字は、意味を担い脳で理解する為のものばかりでなくて、視覚でもって敏速に捕えることが出来るのである。カタカナ文であれば、ドイツ語のようにやはりアルファベットの連続体を読みとって行かなければならないので、漢字の恩恵という事も付け加えておきたい。

構造タイプの記述に用いている略記号の記明

SN：名詞又は名詞幹

SA：形容詞又は形容詞幹（含分詞）

SV：動詞幹及び動詞からの派生名詞

Z：数詞

Pa：不変化詞（特に副詞）

Pron：代名詞

・：構成要素の規定関係を現わす結合記号

＋：構成要素の対等関係を現わす結合記号

SN<sup>+</sup>：所有関係の複合名詞で、規定関係の複合語にプラス α の意味を担っている。

## Literaturen

- 1) Wolfgang Fleischer, Wortbildung der deutschen Gegenwartssprache 4. Aufl. Leipzig 1976
- 2) Duden, Der Grosse Duden Bd.4 Grammatik 4. Aufl. Mannheim 1973
- 3) Walter Jung, Grammatik der deutschen Sprache 4. Aufl. Leipzig 1971
- 4) Rolf Bergmann/Peter Pauly, Neuhochdeutsch Göttingen 1971
- 5) Wilhelm Jude, Deutsche Grammatik § Wortbildung des Substantivs Sanshusha 1969
- 6) Winfried Ulrich, Linguistische Grundbegriffe 2. Aufl. Kiel 1975
- 7) Gerhard Wahrig, Deutsches Wörterbuch München 1975
- 8) 白水社発行 独和言林 佐藤通次著 1971
- 9) 小学館発行 独和大辞典 国松孝二他 1985
- 10) 岩波書店発行 岩波講座「日本文法」第五巻 音韻 1977
- 11)       "                       "                       第六巻 文法 1976
- 12)       "                       "                       第九巻 語彙と意味 1977
- 13) 大修館書店発行 日本の言語学 第二巻 音韻 1980
- 14)       "                       "                       第三巻 文法 I 1978
- 15)       "                       "                       第四巻 文法 II 1979
- 16)       "                       "                       第五巻 意味・語彙 1979